



おやまだ

第 11 号

平成 3 年 3 月 10 日



おやまだを 花いっぱい 美しいまちに

私の住む山田町は環境浄化推進をキヤッチフレーズに、地区民全員の協力によって、「生ごみ」「埋立ごみ」「再生ごみ」の定められた分別のごみ出しを目標に美しい町づくりに取り組んでおります。

平成二年度より更に花づくりによって町を明るく美しくするために自治会として実施することになり、市の方からも予算援助をいただいて、八月に役員総出で花づくりがスタートしました。市民センター前、公会所、バス停、ごみ集積所にプランターを配置し、その後の水やりや管理は老人会、婦人会、その他の団体など、町ぐるみで、多数の人達が世話をしています。

夏から秋にかけて真紅に咲き誇るサルビア、紅白のペゴニア、百日草、けいとう、晩秋から冬にかけて、葉ぼたん、水仙、春はチュウリップ、ヒアシンthus、アネモネ等、二百余个のプランターに、きれいな花が咲いてくれることでしょう。

先日、花のそばで、ひとりのおばあさんが「きれいな花が咲いているのを見ると心が洗われて、気持ちが晴れます。いつもここを通る度に休ませてもらっております。」と言われました。

人々の心をなごませてくれる花づくりを、これからも皆の手によって一本でも多くの花を咲かせて美しい町づくりが出来たら、すばらしいと思います。

山田町
辻 証

在宅

老人福祉問題を考える

— 地区交流懇談会から —

小山田地区を暖かい心のふれ合う福祉の町へ

小山田地区の高齢者の現況

地区人口	5,406人
65才以上の方	812人
(人口に対する割合)	(15%)
ひとり暮らし老人の方	32人
寝たきり老人の方	23人
(平成2年10月1日現在・老人ホームを除く)	

高齢化社会に向かう中で、小山田地区は特に老人の占める割合が15%と他地区と比べても高く、みんなが生きていて良かったと思える様な老後を暮らせるようにと、平成2年度地区交流懇談会で話し合いが行われました。



「老いを楽しく明るく暮らすために」

老人会

我々は知らず知らずの内に社会の恩恵に浴していると思うと何かの恩返しをしたいと思っている。老人会の役割は非常に大きいですが、なかでもボランティア精神で、社会奉仕を積極的に進めていきたい。又自分達の教養の高揚、健康づくりに励んでいきたい。生きがいのある趣味等を一生懸命して、ボケの入り込むスキがない様に、又、お互いに仲間を思いやる友愛訪問を活発に行きたい。

「ひとり暮らし、寝たきり老人の見守りネットワークづくりを」

民生委員会

当地区には新聞誌上に出る様な痛ましい現状はほとんど無いが、将来の事を考えると、社会福祉協議会を軸に、自治会や、近所の方達で自分達の出来る事から手を差しのべて行けるよう、福祉カード作りや、ボランティアの育成等をして、安心して暮らせる町づくりを行きたい。

「地区社会福祉協議会の活動をもっと活発に」

老人会

敬老会のプレゼンなど老人会として色々の事をしていくが、他人の問題ではなく自分の問題としてひとり暮らしの方に声をかけ合ったりしたい。
・自分のボランティア体験を通して市の方でも介護の研修会等の機会を作ってほしい。
一人に一人の看護ではとても出来ないのが皆協力出来るようになると思う。
又ボランティアの組織を作つ

「地区の特性をとらえて福祉のまちのモデル地区に」

地域有識者

高齢者の多い事、空気の美しい所などを活かして、老人福祉のモデル地区になれるように、子供や若い人も福祉体験を通して、思いやりのある地域になれるように、又、現在各団体はそれぞれ、一生懸命しているが、個々の力だけではなく、社協を軸に力を大きく結果したら良いと思う。

寝たきり老人の方へ

おはぎを配って

婦人会 北尾 喜子

小山田地区婦人会は、地区の老人問題に深い関心を持っております。現在当地区には寝たきり老人の方が二十三名いらっしゃいます。お世話をしているご家族の方は、毎日大変だと思えます。

家庭の仕事だけでも沢山有るのにその上、看病をなさるといふ事は、本当に疲れます。しかし、ご家族のやさしいお話を耳にすると、私達も何か出来る事はないかと考えて、十一月十八日に市民センターで婦人

会のおはぎの講習会をいたしました。

栄養士の橋本先生に、いろいろな、おはぎの作り方を教えて頂き、地区の寝たきり老人二十三名の方々に、手作りのおはぎを食べ

て頂きたいと心をこめて作り、各町の婦人会役員でお配りしました。

今は勤めに出られる婦人が多く、「婦人会活動」に参加するの、むつかしい現状です。しかし参加する事によって、色々の人に出会う事が出来、又皆と楽しく学ぶ事によってストレス解消にもなっています。

何事も皆で相談し、話し合っ活き活きた地域社会になるよう、又ボランティア活動には力を入れて、明るく住み良い町づくりに取り組んで行きたいと思えます。

みんなが 楽しい一日を

在宅ひとり暮らし老人の集い



穏やかな秋晴れの十一月二十五日(日)地区社会福祉協議会、民生委員会主催のもとに、ひとり暮らし老人の方々十九名と、自治会、婦人会、老人会の代表のみなさんと一緒に楽しい語らいの一時を過ごしました。心づくしの食事の後は、地区のサークル、新舞踊や、大正琴、出席者の飛び入りのカラオケ、ひとり暮らしの八十三才の方の「さのさ」等、のど自慢も出て、出席者一同大喜びでした。どうぞ、いつまでもお元気で過ごして下さい。



振りかえる幾歲月

夫と歩む人生の旅

和無田町 廣田 久つ子

いつも元気で病気が、身体には自信を持っていた主人が、ある日「突然」「身体の自由」を失なってしまったため、手を貸してやらねば「何一つ」出来なくなっていました。(昭和四十七年発病)

病院で診療を受けたところ「脳卒中」と言われ、早速に入院となりました。

その時期は、私が主人の付き添いに行かねばなりませんし、息子の嫁が初めてのお産のため実家に静養に帰っていた留守でございましたが、嫁も事情が変わったため、静養も充分出来ずに帰って来て家事を引き受けてくれました。

入院して、電気治療、リハビリ等の指導を受け四十日余りで松葉杖にすがってどうにか歩行が出来るようになり退院するまでに回復しました。

ところが四年後―ある夜「再度の発作」に見舞われ、その時、本当に運命の神の無情を恨みました。

手厚い看護治療により補行器でどうにか少し歩けるようになったので退院し、そして十九年、手足も少しづつ自由を失って、今では立ち上る事も出来なくなりました。

最初に倒れた年に生まれた孫も高校三年生になり、「歲月」の流れは誠に早いものでございます。息子も嫁も真面目な働き者で昭和六十二年には、新築した家に、私達のた



めに「陽当りの良い部屋を与えてくれました。

私は主人の介護のため、健康でいなければと自分に言い聞かせていましたが、平成元年の二月頃から食欲不振で体がだるく、夜も不眠になりました。

主人に何回となく夜毎に起こされて体の向きを右に返えたり、左に返えたり寝返りをさせてやらねばならず、夜も昼もなく赤ん坊のように無理を言うのです。

こうした状況のなかで私の身体も疲れ果ててしまったよう、思いきって診察を受けた所、極度の「過労と不眠」と知らされました。

通院で点滴を続けましたがやむなく入院しなければならなくなりました時、息子の嫁が「お父さんの世話は私ではとても充分出来ないけれど一生懸命しますから」と言ってくれました。

嫁のその言葉を聞いて私は涙の出る程嬉しく思いました。退院して再び主人の介護に入りましたが夜中に起こされると時々愚痴もこぼします

が静かに良く眠っている時は「大丈夫」かと心配して、そつと寝顔をのぞいてすやすやと眠っているとホッと安心します。

主人にも一つだけ頑固な所があります。それはタバコが何よりも好きでやる時は、自分の死ぬ時だと言っており無言で空箱をボンと私の前に投げてよこします。今では何の楽しみもない人だものせめて好きなタバコだけでも思っ

てあきらめています。また主人が何よりも楽しみに毎月待っている事が一つあります。それは四日市市社会福祉協議会の移動入浴車が月二回来て下さることです。

毎日、身体はお湯で拭いているのですが何と言ってもお風呂に入れて頂くのが一番嬉しいようです。

暖かい日に外の景色を眺めている主人を見ると、若い頃は一生懸命に働いたのに老後の今、私と旅行する事も出来ず「何を想っているのか」と哀れになって後姿を見ながら、涙する時もあります。

この人の面倒は生涯、私が見なければと心に念じ後何年続くか二人の一生の旅でございます。この先迷って思案する事もあるでしょうが、この道が私に与えられた天の宿命だと思っ

平成三年三月

主人 七十八才
私 六十八才

あれこれ

美しい町づくりをめざして

山田町東自治会 矢田 清



最近、地球環境に対する関心が高まっている中で思う事は、地域の環境美化は住民一人一人の意識高揚によりお互いに守り築いて、それを次の世代に申し送るのが、私達に課せられた使命であるという事です。

「豊かで住みよいきれいな町」は誰もが望むところです。

私達の住む小山田地区は幸にして、空気のきれいな、起伏に富んだ、緑の自然に囲まれた環境の良い土地柄で、この地に生を受けた事を喜んでおります。——自然の恩恵ってなんと素晴らしいものなんだろう——

しかし、時代の変化と共に「ごみ処理の問題、汚水排水等、環境破壊の波は私達の足元へ次々と迫って来ています。こうした環境破壊の問題に対し、「一人の力は微力」であっても「地域全体



が力を併わせて「心掛けたならば、それが大きな防波堤となって、環境保全に役立つのです。」

例を挙げてみれば、地区によっては徹底してごみ出しの立番制度により数年前から見ると見違えるようにきれいになって来ています。

ごみ当番をする事によって直接肌身で感じ勉強し、自然とごみに対する認識が深まり、道端の空缶も目に付けば拾って家に持ち帰り、次の再生ごみ収集日に出したり、コミュニケーションの場にもなっている事を思うと、他地区でもぜひ実行に移してほしいと思います。

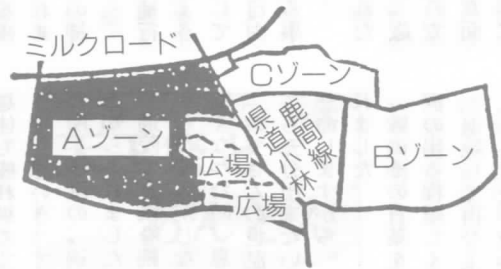
一昨年の、市長との地区交流懇談会の席上、自治会長の一人による提案で「美しい町づくり」の一端として「花づくり運動」がなされております。

市民センター前、バス停附近、ごみ集積場等に四季を通じて、きれいな花が置かれています。通りすがりの人にだけだけ心の安らぎを与えてくれる事でしょう。

「ごみ処理」も「花づくり」もこの運動の輪を小山田全域に広げ、「環境の良い小山田」「美しい小山田」と言われるようになったら、なんとすばらしい事でしょう。

変わりゆく 南部工業団地

昭和63年から建設の始まった南部工業団地は、日々姿を変えて、新しい工場が立ち並び、活気に満ちた小山田を造りつつあります。



●Cゾーン 日乃出ゴム工業(株) 太洋産業(株)



●Aゾーン 太陽化学(株)



●Bゾーン 株式会社 JSP サイトウ工研
愛工グループ ①株愛工社 ②(株)三幸製作所 ③宏和工業(株)

内山町に 第二集会所完成

おやまだ



早速、健康教室で元気に生き活きと！

十月三十一日、内山温泉の前に第二集会所（鉄骨平屋222平方メートル）が出来ました。生活改善勉強会や、自治会、老人会、婦人会等の地域活動、葬祭等の調理や食事場所に使われます。



酪農でがんばっています

「効率的な生産—乳牛の改良」が課題

和無田町 井上 健康



小山田地区にも、酪農家は約三十年前には、内山、山田、六名、美里、和無田を中心に多数ありました。しかし、私が就農した昭和四十三年には、内山を中心に約十五戸になっていました。当時は、当然「手搾り」なので、頭数に限りがあり、和無田町の井上千蔵方で、十四・五頭飼養されていたのが最高だったと記憶しております。現在では内山に五戸と私だけになりました。成牛二十二頭、育成牛十六頭（但し、六頭は農業研究指導所・水沢分場に委託）を現在、飼養しております。三重県全域をみても、昭和四十年には、三千戸もあつた酪農家も、六十年には、四百七十戸と急激に減少し、現在では三百戸をきっております。一戸当りの飼養頭数におきましては、四十年ごろ十頭前後であったが、六十年には三十頭、現在では、三十八頭と多頭化が進んでおります。わが国の酪農も、経済成長に伴う食生活の多様化を背景に順調な発展をとげ、いまやわが国農業の基幹的部門に成長してまいりましたが、市場開放の圧力が年々高まってき

ており、わが国の酪農をめぐる内外の情勢は極めて厳しいものとなっております。こうしたおり、健全な発展を図るためには、一層の生産性の向上を図り生産コストを引き下げ、乳質の向上に努めることが肝要であります。また、需要に「見合った」効率的な生産を行っていくことが、課題となるため、乳牛の改良が今後ますます重要となつてきております。昨年（平成二年）十一月には、熊本県菊池郡で全国ホテスタイン共進会が開催されました。全国から三百頭の出品牛があり、私も三重県代表として参加することができました。この開催時に、北海道の酪農家たちと今後の「経営のあり方」、「乳牛の改良」など語り合う機会が得られ気持ち新たにしております。小山田小学校の学乳も、管内で生産し、市内業者を通じて、供給しており、こうした「地域と直結した」職業であることは大変よろこばしいかぎりです。今後は、ヘルパー制度も活用し、「酪農」が「楽農」になるよう、「仕事に励み」消費者の皆様により一層「おいしい 新鮮な牛乳」が提供できるよう、がんばっていきたいと思っております。

子供会からの報告

地区内一周駅伝大会

和無田町 森 田 久 人



各町の皆様のご協力のもとに実施されました。選手たちは、各町内の声援を受けながら必死に走り、追いつき、追い越せの力走で頑張りました。そして、ゴール地点では、多勢の応援者が集まり、最後の選手に、大きな声援をおくっていただきました。力をおかせ完走する姿が、多くの人にすばらしい感動を与えました。

今年十一月に開催される地区文化祭に合わせて実施しております。駅伝大会は、寒さに打ち勝つ強固な体力と精神力を養う為に行われております。今年度で大会も6回を迎え

11チーム88人の小学生の参加がありました。小山町公会所をスタートし、市民センターまで8区間の10kmを全チームが完走しました。先導は、消防小山田分団で、ミルク道路の横断は、交通安全協会、又浴道は、子供会の役員さんらにお世話になり、

第6回地区内一周駅伝競走大会成績表

順位	チーム名	タイム
1	美里町(A)	42分38秒
2	山田町東	43分12秒
3	美里町(B)	44分24秒
4	堂ヶ山町	44分38秒
5	和無田町	44分56秒
6	山田町西	45分26秒
7	小山町	45分29秒
8	鹿間町	46分17秒
9	六名町	46分28秒
10	西山町	48分25秒
11	内山町	49分37秒

「駅伝大会」

六年(美里町) 塩田 朋

今日地区内一周駅伝大会があった。「今年は優勝むりかな」とみながら言っていたけど、六年間連続優勝できました。はじめはアンカーでゴールインした自分も信じられなかった。でも賞状を手わたしてもらった時「本当に優勝したんだな」と思いました。車にのせてもらい、スタート場所へ行って20分、30分たつて、こづえちゃんがトップで走って来た。その時の私のよるこびは口では言い表せないほどでした。リードしながらタスキを受けとり、後を気にしないで、いっしょうけんめい走った。学校近くへくると、みんながむかえてくれた。美里じゃない地区の人も、私に拍手をくれたり、応援してくれて、とってもうれしかった。今日は自己最高で走れてよかった。

七月、山田町の祭りと言えば「天王祭」天王祭と言えば「奉納踊りとあんどん」が浮かびます。天王さまは、邪悪を追い払い人々の苦を除く神として尊崇されています。毎年七月十四日、加富神社の天王祭に、境内を飾るあんどんについて紹介します。山田町子供会では、小学生全員にあんどん用の障子紙を配布し、皆自分の好きな絵、また願いなどを絵にし、色あざやかに描いてもらいます。そして張りつけが役員の手で準備され、当日の飾りつけが行なわれます。小さなあんどんが集まり

天王祭とあんどん

山田町子供会育成会

矢田 節 男

(約一二〇ヶ) 参道、境内をにぎやかにしてくれれます。昼青空の下、また夜、内側から照明されたあんどんを見

ると、子供の時出会った風景がなぜか懐かしく、他と比較できないほど新鮮な気がしてくる。このあんどんを

小山の「あんどん」

小山町 永尾 菜穂子

いつの頃からどんどこの風習が始まったかは、誰にもわからないようです。昭和の初めは大神明橋の下で、一月七日に開催されたようです。

くまい上がると「字が上手になる」と言われて競って上げたそうです。大人は竹の先に「藤のつる」を巻き、それを高く上げ、つるが南に向くと、その年は北風が強い等と「風の占い」もしたそうです。各自が手作りの焼き網を持って、暮にたお鏡さんを焼いて、夏病みしない様に祈願もしました。

その頃、西所、東所の小学生が、少年団という組織をつくり、正月に飾った各家庭の門松や、わらを集めてきては消防団が中心となり、炎をつけたそうです。子供達は、正月に書いた、書きぞめを持ちより、竹につるして、炎に近づけ、紙が高

この日老若男女が、和気あいあいと、炎の輪の中で餅を焼く姿は、何ともほほえまし

見て童心に帰り、昔を思い出してくれたらと思います。あんどん行事は昭和の始め頃まで続いておりましたが、途中とだえ、現在のは、昭和五十年代前半より行なわれていると聞いております。

他にも天王祭には子供会行事もあり、本年度は拝殿前の笹竹短冊飾り、スーパードールすくい、腕すもう大会などいろいろな賞品を手にし楽しい歓声でにぎわいました。これらの行事は宮世話をはじめ、町内各種団体の協力により支えられており、郷土を愛する山田町の初夏の行事として、定着しています。

くもあり、風情があります。同じ小山町に住みながら、一年に一回、この日に顔を合わせると言う人もあるそうです。先祖代々から続いた伝統行事をなくさないように、親から子、孫へと伝えていってほしいと思います。





講座に参加させていただいたおかげで、ビタミン類、カルシウム、その他の栄養素を一日の食事にバランス良く摂ること、薄味に心掛けることが、家族の健康維持に役立つことを学ばせて頂きました。

料理講座に参加して、一食に使われる材料の多い事、何より、ほとんどの料理が薄味であることに驚きました。
主人は以前、血圧が高く、それまで漬け物が好きで、三食切らした事が無い程食べていました。前から塩分がよくない事は知っていましたが、漬け物を出さないようにし、酢の物や、ごまあえを増やして工夫したところ、現在では正常値を保っています。それでも、わが家の味は少し濃いのに気がつきました。

近頃、子供の成人病や、若い働き盛りの人が「成人病」の為に亡くなった話をよく聞きます。
以前から、インスタント食品があふれている中で、健康についての正しい知識を得、毎日の食事に生かせたらと思っていました。

料理講座に参加して

鹿間町 市川 博子



▲高齢者教室でイチ、ニ、サン



▲ふくらむふくらむパンづくし



▲アートフラワー すてきだね



▲廃油から石けんづくり
とてもよく汚れが
おちました



▲ふるさとの歴史を再発見して



▲リフォームで
ものの命を生きかえらせて

文芸らん

川柳

● 幾度か許し許され共白髪
● 無言でも部屋に二人の居る安堵
山田町 矢田はるみ

● 今日の日を善女で行こう朝の鐘
● 挫折毎に強くなれるのも女
山田町 矢田 照子

● 子の家鴨親の声きき水尾曳く
● 泥つて小鴨顔あげ吾を見る
小山田軽費
老人ホーム 松岡婦美子

短歌

● 雨のあと静かなる日の庭の木々
● 燃ゆる緑のその中に立つ
小山田軽費
老人ホーム 松岡婦美子

俳句

● あかぎれの手入れや明日の庭掃除
● どんぐりのころがり出す落葉撞く
山田町 矢田 佳範

● 猫柳小金色になり川光る
● 朱の鳥居詣でて喜寿を迎えたり
小山田軽費
老人ホーム 松岡婦美子

● 小山田軽費老人ホーム
● 俳句同好会
● 手術衣を脱ぎて狭庭の菊を観る
● 志せい
● 山の影山に従い冬暮るる
● 松岡

● 朝の月霧ゆく空にぼんやりと
● 松岡

● 科人のごと首出して年賀の湯
● 麦笑
● ふき

詩

唯一筋に

太陽は今真赤に山の空に登る
名も知れぬ野辺の花は
朝露にぬれて光り輝き
その美しい形その美しい色
青空に向って

その愛を求めている
唯一筋に命を求めて
大自然の大きな恵みをうけて
命の限り咲いている



小山田軽費
老人ホーム 松岡婦美子

山の神祭、豊穣の恵みに浴する

毎年十二月七日に六名町で...

六名町 田中弘治郎

わが六名町にはその昔、「六名村字中村」の時代から続いてきました「山の神祭」があります。

祭日は十二月七日ですが、

前日(六日)の宵祭には氏神山ノ神社(御祭神大山祇命)に今年の豊穣を感謝するため、各戸が赤飯を供饌する行事が

毎年、小山田地区文化祭に、

時代をさかのぼって、古典ゆかしき、伝統美あふれる、手造りの帯や羽織の紐、髪飾り、ベルト、キーホルダー等

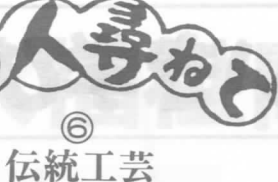
あります。

現在は時の流れにて幾分変わりましたが、古老の言い遣しましたるその「作法」を記します。

お供え用の三宝台は新しい杉の木、又は桧丸太を縦に割り、鉈にて削り上げ十糶角程の薄い板を作ります。

の方が三名、一生懸命習っていらつしやる所で、お話しを伺いました。

安藤さんが伝えている組み紐は、



⑥ 伝統工芸

組み紐に取り組んで

鹿間町 安藤久美子さん

の組み紐の作品が、出されま

す。今回はその出品者のグループ代表(講師)安藤久美子さんを尋ねました。丁度、近所

丸台や、高台、綾竹台を使い、京都から取りよせた、絹や、ビロン(化繊)の糸で、教書という図面を見ながら、

生徒の一人の方が「柄



生きているものに豊穣の恵みに浴するようにと古い昔より伝えられており、「中村氏子」の温かい心づくしの作法の一つであります。

七日 本祭当日は、山林に入り立木の伐採、枝払い、下草刈り等の作業は行なわれないよう堅い申し合わせがありました。

又、下げない三宝はお正月の篝火にて焼き祓いますから后には残りません。

六名の「山の神祭」の作法を紹介させていただきます。

によって糸の順番がむつかしく、

一とおり覚えるまでが苦労だけれど、手先の仕事は年を取っても、張り合いがあり、出来上った作品を人にあげる時が一番嬉しい」と話して下さったのが心に残りました。

地区の人口 5,792人

(平成3年1月1日現在)

町 別	世帯数	人 口		計
		人 男	人 女	
山 田 町 (含老人ホーム)	929	917	1,190	2,107
西 山 町	164	305	335	640
小 山 町	144	300	305	605
内 山 町	54	102	119	221
六 名 町	50	95	96	191
堂ヶ山町	111	248	260	508
美 里 町	33	95	89	184
鹿 間 町	254	445	468	913
和 無 田 町	99	203	220	423
計	1,838	2,710	3,082	5,792

編

集

後

記

◎地区広報「おやまだ」(第十一号)をお届けします。

◎今号は、「小山田の老人福祉を考える」、花づくり・酪農等の各町の紹介、駅伝大会

町づくり(環境問題)、天王祭とあんどん・山の神祭行事講座案内を主に取りあげてみました。

◎ご寄稿いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

なお、紙面の都合上、原稿

の一部を割愛させていただきましたが、あしからずご了承ください。

地区広報委員会
小山田地区市民センター

